

授業改善部会（国語部会）の取組

目指す子ども像

- 複数の資料を的確に読み取ることができる子ども
- 複数の資料を比較したり評価したりして読むことができる子ども
- 条件に合わせて自分の考えを書きまとめることができる子ども



取組

「指導例」を有効に活用した単元の構想と検証

- ☆ 単元の学習に「指導例」を取り入れて構成
- ☆ 「指導例」を子どもの実態に合わせてアレンジ
- ☆ 「指導例」を活用した授業を公開（県内7小学校）

「指導例」のダウンロード

Webページ「確かな学び 豊かな学び 滋賀の学び」

<http://www.shiga-ec.ed.jp/manabi-shiga/>



課題

- ◆ 複数の資料を的確に読み取ることが苦手
- ◆ 複数の資料を比較したり評価したりして読むことが苦手
- ◆ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめることが苦手

単元名・単元目標

第4学年「仕事リーフレットを作ろう」（光村図書）

- ・ 関心のあることから書くことを決め、書く上で必要な事柄を調べることができる。
- ・ 書こうとすることの中心を明確にし、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。
- ・ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。
- ・ 句読点を適切に打ち、必要な場所は改行して書くことができる。

指導例「『おはなし会』のお知らせ」の概要

新聞委員の書いた「『あいさつ運動』のお知らせ」の記事を読み、お知らせの記事として大事な事柄は何かを考える。その後、新聞委員になったつもりで、「『おはなし会』のお知らせ」の記事を書く。その際には、お知らせの記事として大事な事柄を抜かさないようにする。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



第一次

1 「写真と文章を使ったリーフレットを作る」という学習課題を設定することにより、学習の見通しをもつことができる。

2 インタビューする相手を決め、取材のためのメモを作って取材をすることができる。

1

第二次

指導例「『おはなし会』のお知らせ」

1 条件に合わせて自分の考えを書きまとめることができる。

2

2 リーフレットを作るために構成を工夫したり、取材したことをもとにどのようにまとめるかを考えたりすることができる。

3 取材したことから書く内容を選び、写真と文章を対応させて、「仕事リーフレット」を完成させることができる。

3

第三次

1 「仕事リーフレット」の交流会をして、よさを伝え合うことができる。

押さえてたい指導のポイント

条件に合わせて書く

後で行う言語活動（学習活動）の充実を図るために、先にモデルを示し、活動内容を理解させる。

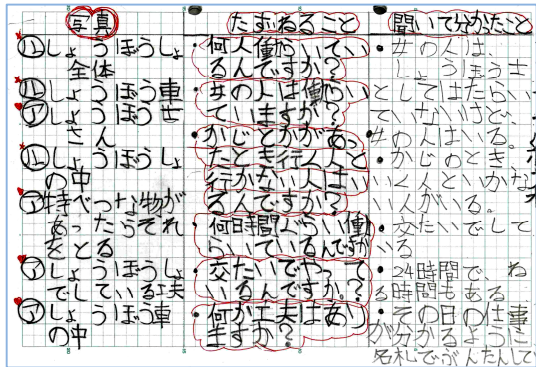
伝えたいことを整理して分かりやすく書くための条件を与え、意識して書かせる。

記事(文章)で伝えたいこと(目的や意図)を明確にし、それに合わせて材料を取捨選択させる。

分かりやすい記事にするために、構成（順序）を考えさせる。

1

「仕事リーフレット」を作るために取材をしましょう。



「仕事リーフレット」の取材メモ

あらかじめ、撮影する写真の撮り方や尋ねること考えてから取材した。聞いて分かったことの欄には、相手から聞いた話の内容や、話を聞いて考えたこと、さらに質問して分かったことを書きまとめた。

3

条件に合わせて書く

取材したことから大事な情報を選び、リーフレットの記事を書きましょう。



「仕事リーフレット」の表紙

取材した情報をもとに、伝えたい大事なこと(中心)が分かる表紙を工夫し、楽しんで取り組むことができた。事前に指導例の学習を行ったため、「大事な事柄を抜かさない」ということに対する意識が高まり、取材した多くの情報の中から、必要な情報を適切に選び出すことができた。

児童は「大事なことを逃さずに書くという勉強をして、リーフレットを作るときに、とても役立ちました。こういう勉強は楽しいなと思いました。」「ほかの勉強にも、大事なことを抜かさずに書くことができたのでよかったです。」などの感想を述べており、学習の積み上げと大切さに気付くとともに、自身の成長を自覚することができた。

2

指導例

条件に合わせて書く

『あいさつ運動』のお知らせ」の記事の中で大事な事柄はどれでしょう。

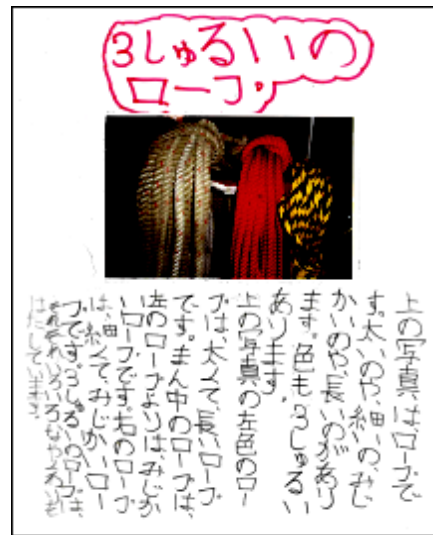
自分が新聞委員になったつもりで、大事な事柄を抜かさないように『おはなし会』のお知らせ」の記事を書きましょう。

よびかけ	気持ちのよい一日	代表委員、	くつは、この前	八時から八時十分まで	「あいさつ運動」のお知らせの記事の中の事柄(ぬき出し)	「お話し会」があります 十月二十九日の昼休みに図書室で図書 委員がおはなし会をします。内容は本の 読みかきせと新しい本の紹介をします。 「おはなし会」で本を好きになろうというの せひきてください。
内容	目的	行っ人	場所	時間	情報の種類	

記事の中の大事な事柄

お知らせの記事

『あいさつ運動』のお知らせ」の記事で、お知らせの記事として大事な事柄について学習しているため、それを参考に、順序立てて書くことができた。



「仕事リーフレット」の記事

上図の児童は、消防車に装備されているロープについて、アップの写真を使って、全体的な事柄から部分的な事柄へ順序よく説明している。指導例による学習を生かし、読み手の分かりやすさを考えて順序立てて書くことができた。

単元名・単元目標

第4学年「ごんぎつね」（光村図書）

- ・場面と場面のつながりを意識し、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに読むことができる。
- ・物語を読んで感じたことや考えたことを交流し、一人ひとりの感じ方・考え方の違いに気付くことができる。
- ・紹介したい本を選んで読み、作品のよさや特徴に気付くことができる。

指導例「てぶくろを買いに」の概要

「てぶくろを買いに」の冒頭部分を読み、物語の設定について理解する。また、展開部分の子ぎつねの言葉から、母ぎつねと子ぎつねの置かれている状況や雪の情景などを想像する。さらに、作品についての話し合いの資料を読み、話し合っている内容の確かさを考える。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



第一次

指導例「てぶくろを買いに」

1 「物語の設定」や登場人物の状況を読み取り、作品のよさや特徴を見付けることができる。



第二次

1 「物語を読んで、考えたことを話し合う」という学習に意欲をもつことができる。

2 物語の中に出てくる語句について調べ、言葉の意味を理解することができる。

3 場面の設定や物語の展開をとらえることができる。

第三次

1 読み深めていきたい学習課題を考えることができる。

2 学習課題について自分の考えをもち、友達と交流することができる。

3 〈学習課題 例〉

4 ・「ごん」と「兵十」の距離感、「ごん」の「兵十」に対する思いなど、二人の関係について

5 ・「ごん」と「兵十」の境遇について

6 ・「ごん」の思いと「兵十」の認識の違いについて

7 ・語り手の視点の転換について

7 自分の考えの根拠となる部分を読み、必要に応じて引用しながらまとめることができる。

8 物語を読んで感じたことや考えたことを交流し、友達との感じ方の違いに気付くことができる。

第四次

1 紹介したい作品について、「ごんぎつね」と比較しながらよさや特徴を見付けることができる。

2 作品のよさや特徴について自分の考えをまとめ「作品交流会」で紹介し合うことができる。

4

押さえてたい指導のポイント

的確に読む

評価しながら読む

作品のよさや特徴を考えて交流し合う学習を行うことを知らせ、目的をもって読ませる。

登場人物、季節、天気、場所等、「物語の設定」として描かれていることを読み取らせる。

「登場人物の状況」について描かれている部分に着目させ、どのような状況かを考えさせる。

作品についての話し合いの中に間違った解釈や考えがあることを指摘することにより、作品を評価して読む力を身に付けさせる。

作品のよさや特徴について、自分の思いや考えをまとめさせる。

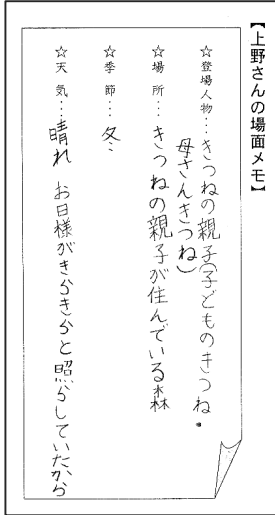
学習活動の様子

1

指導例

的確に読む

物語「てぶくろを買いに」の設定を読み取りましょう。



設定の読み取り

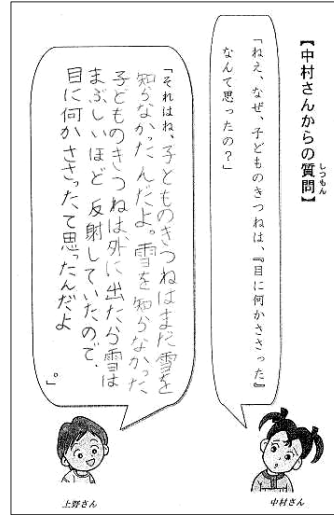
冒頭部を読むことにより、登場人物、場所、季節等の物語の設定をとらえられることに気付くことができました。本単元や他の物語の学習でも意識することができました。

2

指導例

的確に読む

子どものぎつねの言葉を読んで、物語の情景を想像しましょう。



情景描写の読み取り

話し言葉で考えることにより、必要な情報(言葉)を本文から抜き出すだけでなく、自ら言葉を補うことができた。また、ペアで交流することにより、分かりやすい内容になるよう考えることができた。

3

指導例

評価しながら読む

学級の友だちの意見は適切ですか。文章を評価しながら読んで考えましょう。



物語の内容についての話し合いが適切かどうかを考えて書いたメモ

話し合いのそれぞれの発言について考えることを通して、物語をただ漠然と読むのではなく、言葉や文の意味を考えながら主体的に読むことができた。

4

的確に読む

評価しながら読む

「ごんぎつね」や、新美南吉の他の作品を読み、自分の考えをまとめましょう。

指導例で学習したことを生かし、作品「ごんぎつね」の設定を読み取る学習(第二次)や、情景描写を読み取る学習(第三次)、評価しながら読む学習(第三次)を行った。学習の方法や考え方が理解できていたため、よりの確に、自分なりの考えをもって読み深め、友だちと交流することができた。

また、作者の他の作品についても、同様に主体的に読み進め、作品のよさや特徴を見付けて、自分の考えとしてまとめることができた。

単元名・単元目標

第4学年「みんなで新聞を作ろう」（東京書籍）

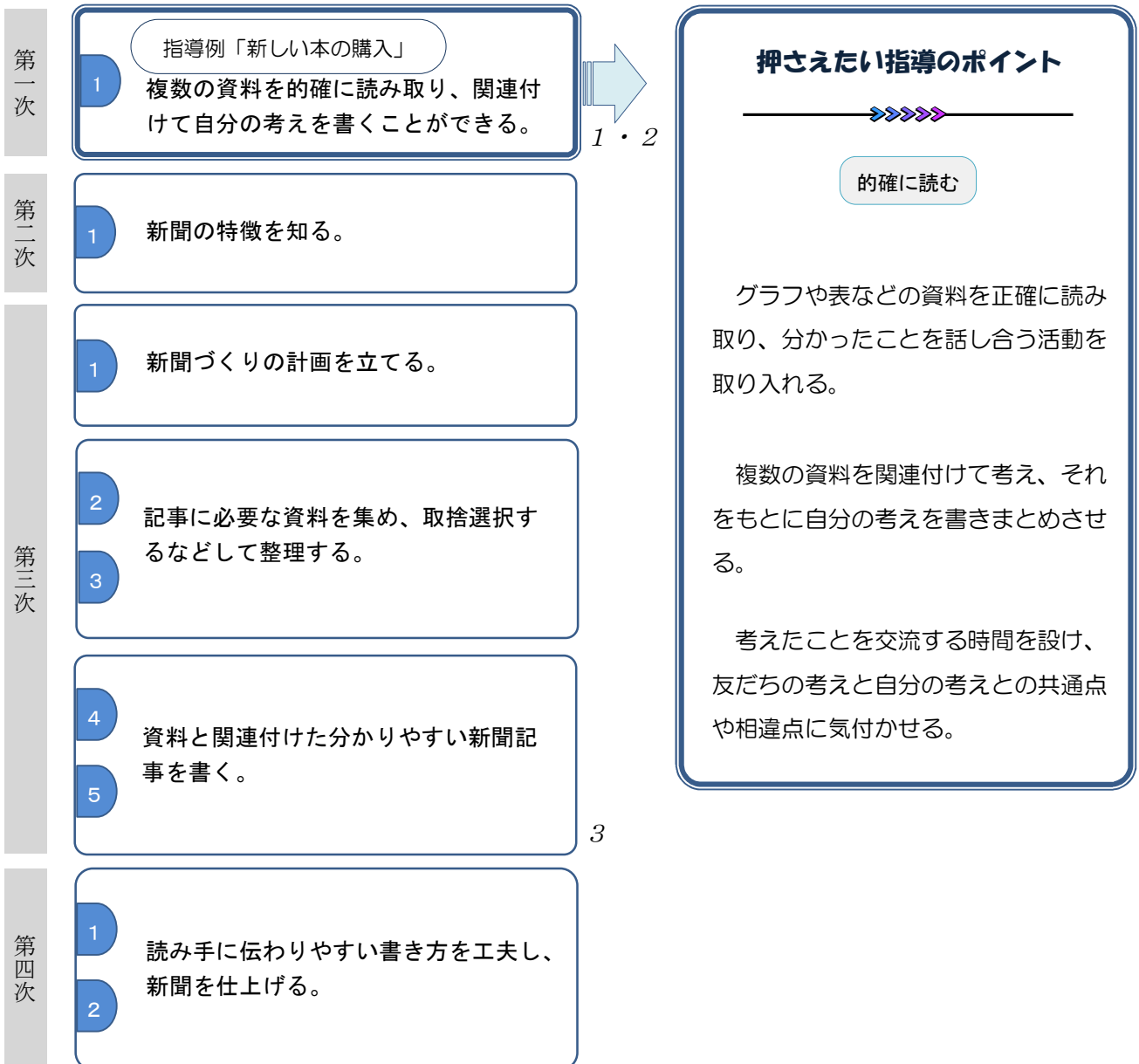
- ・調べたことを新聞の形で伝えることに興味を持ち、新聞作りに意欲的に取り組む。
- ・取材した複数の資料と文章を正確に読み、関連付けて考えることができる。
- ・資料を読んで考えたことを根拠に、伝えたいことを明確にした文章を書くことができる。
- ・見出しや文章構成等、読み手の興味を引く書き方を工夫することができる。

指導例「新しい本の購入」の概要

図書委員会では、図書室に新しい本を増やすことが決まった。どの種類の本を増やすのがよいか、資料ABCを関連させながら読んで考え、自分の意見をまとめる。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



学習活動の様子

1

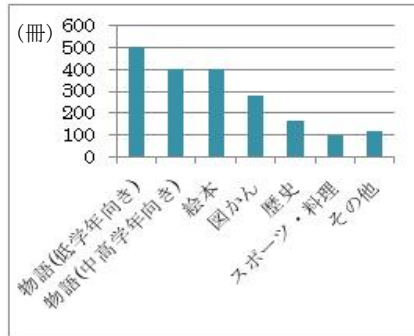
指導例

的確に読む

三つの資料を読み、それぞれから分かることを話し合しましょう。 ※ここに掲載した資料は略図

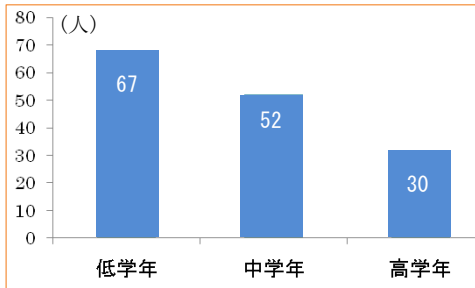
【資料A 図書館にある本の種類ごとの冊数】

【資料B 一週間の貸し出し冊数のランキング】



低学年	1位	絵本	186冊
	2位	物語	117冊
	3位	図かん	65冊
中学年	1位	物語	126冊
	2位	絵本	89冊
	3位	歴史	52冊

【資料C ある日の図書館の利用者数】

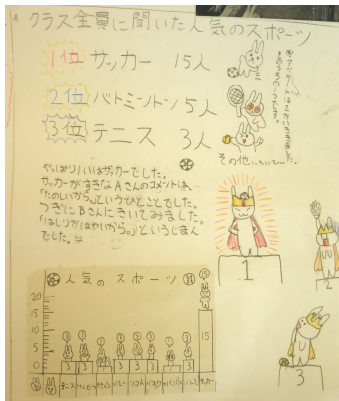


「買う本を考える」という目的をもってそれぞれのグラフや表を読み、そこから分かることを話し合った。漠然と資料を読むのではなく、視点をはっきりさせて資料を読むことにより、何をかうとよいかという自分の考えを明確にすることができた。

3

的確に読む

取材して集めた複数の資料を読んで関連させ、学級新聞の記事を書きましょう。



学級新聞の記事

指導例の学習を生かして、取材した材料を的確に読み、関連させて学級新聞の記事を書くことができた。また、資料を参考に、図や表などを用いる児童もいた。

2

指導例

的確に読む

三つの資料を関連させ、新しい本を買うならどの種類の本がよいか考えましょう。

増やしたい本の種類…歴史の本
理由…低学年にはない本だけれど、中学年や高学年にはほいていけるから、あと、次買料Aを見ると、歴史が足りないから。それに、低学年にも歴史をみてほしいし、次目、料Cをみると、低学年が一番本をよんでいけるけど、歴史の本をみていない。

資料を関連させて考えたこと

増やしたいと考える本の種類は、児童によって様々であった。どの考えも、A～Cの資料を的確に読んで把握した内容を根拠にしたもので、説得力があった。

単元名・単元目標

第5学年「注文の多い料理店」（東京書籍）

- ・表現のおもしろさを味わいながら進んで読むことができる。
- ・登場人物の心情や場面の様子を想像しながら読むことができる。
- ・作品（文章）を比べながら読み、叙述について自分の考えをまとめることができる。
- ・比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

指導例「『注文の多い料理店』評」の概要

「注文の多い料理店」の最後の部分の評価しながら読む学習である。作者が、どのように表現の工夫をしているかということを読み取り、その効果について自分の考えをもち、書きまとめる。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連

第一次

1 宮沢賢治について知り、作品を読もうとする意欲をもつことができる。

2 「注文の多い料理店」のおもしろさについて、初発の感想を書くことができる。

3 学習の見通しをもつことができる。



第二次

1 時・場・出来事・人物の行動や気持ちなどに気を付けて、場面に分けることができる。

2 二人の紳士の装いや言動を表す言葉から、人物像を考えることができる。

3 視点を変えて文章を読み、表現のおもしろさを見付けることができる。

4 〈読む視点〉 ・紳士の視点から読む

・山猫の視点から読む

・情景描写に着目して読む

指導例「『注文の多い料理店』評」

6 資料の比較を通して、表現の違いとそのおもしろさをとらえることができる。

7 作品の構成や表現上の特色を踏まえ、自分の考えをもつことができる。

1

第三次

1 宮沢賢治の他の作品を読み、「解説ノート」作りの見通しをもつことができる。

2 宮沢賢治の作品の構成や表現の工夫など、自分が読んで考えた作品のおもしろさについて、

3 「解説ノート」に書きまとめることができる。

2

4 「解説ノート」の内容について、自分の考えと比べながら交流することができる。

押さえてたい指導のポイント

比較しながら読む

評価しながら読む

原文と原文に類似した文章を比較して読み、文章表現に違いのあることに気付かせる。

原文と原文に類似した文章を比較して読ませることにより、原文の比喩表現や例示の効果に気付かせる。

作品（原文）の描写について自分の考えをもたせ、評価させる。

自分の考えを、条件に合わせて書きまとめさせる。

単元名・単元目標

第6学年「ふるさとの良さを紹介しよう」（東京書籍）

- ・書くことに必要な事柄を進んで集めたり、それらを活用して書いたりすることができる。
- ・目的や意図に応じて、書く事柄を収集することができる。
- ・取材メモを生かして、文章全体の構成を考慮することができる。
- ・図表やグラフなどを活用して、自分の調べたことや考えが伝わるように書くことができる。
- ・文章にはいろいろな構成があることを理解することができる。

指導例「学校の紹介」の概要

市の広報誌に「私たちの学校を紹介する記事」を載せてもらうことになった。新聞委員会では、全校児童を対象として、「私たちの学校の好きなおとこ」の調査を行い、表にまとめた(資料①)。そして、その表をもとに、どのような記事にすればよいかということを話し合った(資料②)。資料①②を読んで、どのような記事を書くかよいか考え、新聞委員になったつもりで記事を書く。

指導例を使った単元構成例

「ふるさとの良さ」に替えて、「修学旅行で見学したところの良さ」を新聞やパンフレットに書いて紹介する学習を行った。

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



1 修学旅行での取材の仕方について知り、学習計画を立てる。

1

～修学旅行～
見学、インタビューなどを通して、材料を集める。

2 取材した事柄を整理する。

3 指導例「学校の紹介」
複数のテキストを的確に読み取る。条件に合わせて自分の考えを書きまとめる。

2・3

1 書く形式(新聞またはパンフレット)
2 を選び、図表や写真などを用いて、
3 紹介したい事柄を、分かりやすく書
4 く。

4

1 表現の工夫について、良いと思うところを見つけて伝え合う。

押さえて指導のポイント

的確に読む

条件に合わせて書く

資料を読むときには、「何を考えるために読むのか」といった具体的な目的を示し、意識させる。

複数の資料がある場合は、それぞれを関連付ける前に、まず一つずつ、内容を読み取って理解させ、考えをもたせる。

分かりやすい記事にするために、構成(書く事柄の順序)を考えさせる。

伝えたいことを整理して分かりやすく書くための条件を与え、意識して書かせる。

第一次

第二次

第三次

学習活動の様子

1 修学旅行で取材したことを整理しましょう。

修学旅行では、あらかじめ考えた新聞やパンフレットの記事の内容に合わせて、建物などの写真を撮ったり、インタビューをしたり、パンフレットを集めたりして、書くための材料を収集した。

2

指導例

的確に読む

「わたしたちの学校の好きなところについて調査した結果の表」と「話合いの一部」とを関連させて読み、広報誌に「学校の（良いところの）紹介」記事として載せたいものを考え、表にまとめましょう。

司会	田中	佐藤	大西	A委員会の人
	図書室 ジャンボタワー	動物のいる い草場	図書室	Bのたいもの 色別遊
	よく遊ぶ人がたくさん	動物のいる人気が高い	動物のいる人がたくさん	Cのたい理由 のりんな学年のまじりよく

新聞委員の考えとその理由を読み取ってまとめた一覧表

まず、調査結果の表を読み、分かることを話し合った。次に、新聞委員会の話合いの資料を読み、各委員が何について記事にしたいと考えているか、そう考える理由を的確に読み取って一覧表にまとめた。

3

指導例

条件に合わせて書く

考えたことをもとに、新聞委員になったつもりで広報誌に載せる「学校の紹介」の記事を書きましょう。

(条件)

- ① 広報誌に載せるとよいと思う項目を一つ選ぶ
- ② 「調査結果の表」と「話合いの一部」の内容をもとにしてこの学校の良さが分かるよう書く
- ③ 80字以上 100字以内で書く

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ	そ	た	ち	て	と	な	に	の	を	は	ら	を	に	あ	る	
る	の	よ	景	遊	の	よ	ま	ま	私																				
ん	良	う	色	景	学	く	す	ニ	た																				
で	い	に	が	で	校	遊	・	ボ	ら																				
ず	所	ジ	最	天	で	ん	ニ	タ	の																				
・	は	ヤ	高	気	は	で	れ	ワ	学																				
	た	ニ	で	の	見	リ	は	し	校																				
	く	ボ	ず	良	か	ま	み	を	に																				
	さ	タ	・	け	ず	ん	紹	あ																					
	ん	ワ	ご	時	な	・	な	介	る																				

条件に合わせて書いた「学校の紹介」の記事

読み取ったことをもとに、自分の考えをもち、記事を書いた。「自分だったらどうするのか」という判断力を育てることができた。また、条件を設定することにより、根拠を明確にして考えの理由を書いたり、大切なことに焦点を絞って書いたりすることの意識が高まった。

4

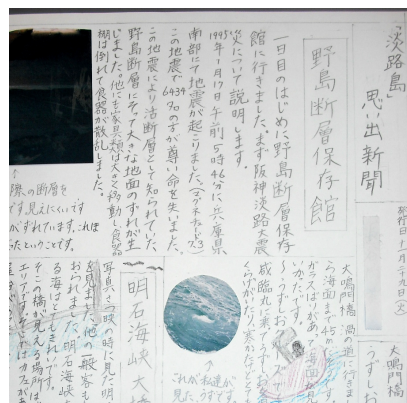
的確に読む

条件に合わせて書く

取材してきた材料を見て（読んで）ふさわしいものを選び、条件に合わせて新聞またはパンフレットの記事を書きましょう。

指導例の学習で身に付けたことを生かし、修学旅行の見学地で集めてきた表や図、文章など様々な材料を的確に読み取って整理し、自分が書こうとする記事にふさわしい材料を選ぶことができた。

また、記事を書くときの条件に合わせて、意欲的に書きまとめることができた。



条件に合わせて書いた新聞の記事

単元名・単元目標

第6学年「やまなし」「資料：イーハトーヴの夢」（光村出版）

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、宮沢賢治の考え方や生き方を考えることができる。
- ・場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- ・目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

指導例「賢治の生き方」の概要

簡単に書きまとめられた「宮沢賢治の伝記」を読んで、賢治の生き方について自分と重ね合わせて考え、理由や根拠を明確にして表現する。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



第一次	<p style="text-align: center;">指導例「賢治の生き方」</p> <p>1 資料「宮沢賢治の伝記」を読み、賢治の生き方について自分と重ね合わせて考え、理由や根拠を明確にして表現することができる。</p> <p>2 賢治の生涯を年表にまとめることができる。</p>	1	<p style="text-align: center;">押さえてたい指導のポイント</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px solid #0056b3; margin: 5px 0;"/> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px 10px; background-color: #e6f2ff;">的確に読む</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px 10px; background-color: #e6f2ff;">条件に合わせて書く</div> </div> <p>資料「宮沢賢治の伝記」を正確に読ませ、必要な情報を抜き出させる。</p> <p>自分の考えを発表するときには、文章中の言葉を根拠に述べるようにうながす。</p> <p>決められた条件に合わせて、根拠を明確にして書きまとめる機会を設ける。</p>
第二次	<p>1 「やまなし」の題名と冒頭の一文から想像したことを発表し、全文を音読することができる。</p> <p>2 2枚の幻灯写真に描かれている内容を読み取り、作品の構成を考えることができる</p>		
第三次	<p>1 「五月」の場面を、「かへの親子」の様子や登場する物や音などに着目して読み、谷川の情景を想像することができる。</p>	2	
	<p>2 「十二月」の場面を、「やまなし」の出現で変化していく「かへの親子」の様子や気持ちに着目して読み、谷川の情景を想像することができる。</p>	2	
	<p>3 谷川の情景を想像しながら「五月」と「十二月」の場面を比べ、共通点や相違点について感じたことを話し合うことができる。</p>	2	
第四次	<p>1 「資料：イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生きていた時代の状況、賢治の思想や行動、賢治の考え方を読み取り、年表にまとめることができる。</p>		
	<p>2 年表をもとに、心に残ったことを交流し、作者の生き方や考え方を探ることができる。</p>		
	<p>3 「やまなし」に描かれている賢治の考え方について話し合うことができる。賢治の他の作品を読んで考えたことを書きまとめ、話し合うことができる。</p>	3	

学習活動の様子

1

指導例

的確に読む

条件に合わせて書く

資料「宮沢賢治の伝記」を読み、賢治の生き方について自分と重ね合わせて考え、理由や根拠を明確にして書きましょう。

A児

し	に	く	に	一
て	の	れ	す	日
て	っ	る	る	じ
も	た	か	と	サ
村	り	ら	う	
を	し		農	村
守	て	病	民	か
り	い	気	た	ら
た	る	で	ち	村
い	。	も	は	へ
の	賢	負	笑	走
だ	治	ず	顔	っ
が	さ	に	て	て
と	ん	農	幸	農
思	は	民	せ	民
ら	。	た	そ	ち
		そ	ち	う
		。	の	に
		ま	相	し
		で	談	て

100字 80字

B児

に	の	で	事	は
そ	っ	す	と	く
れ	た	。	考	は
を	と	例	え	賢
し	こ	え	ず	治
た	ろ	ば	。	が
く	で	病	農	す
て	す	気	民	ご
楽	。	て	の	い
し	そ	ふ	た	と
か	れ	せ	め	思
っ	は	っ	に	う
た	多	て	っ	。
人	分	も	く	理
だ	。	農	し	由
と	賢	民	て	は
思	治	の	い	。
い	か	相	る	自
ま	本	談	か	分
す	ま	に	ら	の

100字 80字

単元の導入時に考えた賢治の生き方についての考え

まず、賢治の業績や作品等が書かれた部分(事実)と筆者から見た賢治の生き方が書かれた部分(意見)を区別して読み、文章の内容を的確にとらえた。次に、賢治の生き方について、自分の考えをもち、条件(80字~100字で、根拠を明確に)に合わせて書きまとめた。さらに、自分の考えの根拠となる部分に線を引いて確認し、根拠を明確にして考えたり表現したりすることの大切さを理解した。

A児は、賢治の農民に対する懸命なかかわりを根拠に考えを書きまとめた。B児は、賢治が自身の病気をおして農民に献身的にかかわったことを根拠に考えを書きまとめた。

2

的確に読む

条件に合わせて書く

情景を想像しながら「やまなし」を読みましょう。

指導例の学習で身に付けたことを生かして、作品「やまなし」を読み深めた。

比喩、擬態語・擬声語、色などの表現に着目して文章の特徴や効果をとらえたり、場面と場面とを比較して共通点や相違点を考えたりすることを通して、物語の主題を的確に読み取った。

また、「考えの根拠となる言葉を使って書く」等の条件に合わせて書く学習を取り入れ、それをもとに話し合う活動を行った。条件に合わせて端的にまとめることにより、自分の考えが整理され、話し合い活動が活発なものとなった。

3

的確に読む

条件に合わせて書く

賢治の他の作品を読んで、賢治の生き方について考えたことを書きまとめ、話し合ひましょう。

A児

賢	し	文	さ	賢
治	。	は	る	治
み	相	。	よ	は
た	談	一	う	。
い	に	日	に	地
に	の	じ	努	域
み	っ	。	カ	の
ん	た	う	し	人
な	り	村	て	マ
の	し	か	い	が
た	て	ら	る	幸
ゆ	い	村	こ	せ
に	る	へ	と	に
や	の	と	い	暮
く	だ	走	あ	せ
だ	か	。	か	る
ち	ら	た	る	こ
た	ぼ	り	。	と
い	く	す	そ	が
。	も	る	の	で

100字 80字

B児

な	ー	し	民	ほ
が	生	た	と	く
が	。	。	幸	は
人	生	ほ	せ	賢
げ	か	く	に	治
る	し	は	す	の
せ	て	そ	る	生
界	。	ん	た	き
に	人	な	め	方
な	が	こ	に	が
。	が	と	賢	ず
た	ん	で	治	こ
ら	ば	き	の	い
い	る	ま	。	と
い	の	せ	生	思
で	。	で	ん	を
ず	な	。	さ	ま
。	く	賢	さ	す
	み	治	げ	。
	人	の	ま	農

100字 80字

単元の終末に考えた賢治の生き方についての考え

単元の終末に、再度、賢治の生き方について、条件に合わせて自分の考えを書いた。導入時には賢治の生き方について客観的な考えを述べるにとどまっていた児童が、自分の考えを明らかにして、根拠に基づいて述べるできるようになった。

単元名・単元目標

第6学年「やまなし」「資料：イーハトーヴの夢」（光村図書）

- ・情景や独特の表現に興味をもって読み、作品や資料から宮沢賢治の生き方を考えることができる。
- ・場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめ、交流することができる。
- ・目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。
- ・作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。

指導例「『注文の多い料理店』評」の概要

「注文の多い料理店」の最後の部分を評価しながら読む学習である。作者が、どのように表現の工夫をしているかということを読み取り、その効果について自分の考えをもち、書きまとめる。

指導例を使った単元構成例

※斜体の数字は右ページの学習活動の様子と関連



第一次	<p>指導例「『注文の多い料理店』評」</p> <p>1 二つの文章を比べながら読み、その違いをとらえることができる。 作品の構成や表現上の特色を踏まえ、自分の考えをもつことができる。</p>	1・2	<p>押さえてたい指導のポイント</p> <p>比較しながら読む 評価しながら読む</p> <p>原文と原文に類似した文章を比較して読み、文章表現に違いのあることに気付かせる。</p> <p>原文と原文に類似した文章を比較して読ませることにより、原文の比喩表現や例示の効果に気付かせる。</p> <p>作品（原文）の描写について自分の考えをもたせ、評価させる。</p> <p>自分の考えを、条件に合わせて書きまとめさせる。</p>
	第二次		
第三次	<p>1 「五月」の場面を読み、様子を表す言葉や比喩表現に着目しながら、谷川の情景や、「かにの親子」の様子を想像することができる。</p>	3	
	<p>3 「十二月」の場面を読み、様子を表す言葉や比喩表現に着目しながら、谷川の情景や「やまなし」の出現で変化していく「かにの親子」の様子を想像することができる。</p>		
	<p>4 「五月」と「十二月」から読み取ったことを想起しながら、二つの場面を比べ、共通点や相違点について感じたことを交流することができる。</p>		
	<p>5 「資料：イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方のもとになった出来事や作品が誕生した背景などを年表にまとめることができる。</p>		
第四次	<p>6 宮沢賢治の生き方や考え方について話し合い、作者が「やまなし」という題名を付けた理由について、考えをまとめる。</p>		
	<p>1 「やまなし」「資料：イーハトーヴの夢」を読んで考えてきたことと、賢治の他の作品を読んで感じたことを関連付けて話し合うことができる。</p>		

学習活動の様子

1

指導例

比較しながら読む

評価しながら読む

「注文の多い料理店」の最後の部分の文章を読んで、どちらがよいか考えましょう。

A：原文。比喩等が効果的に使われている。

B：原文に類似した文章。比喩等が使われていない。

あなたの考え	あなたの考え
<p>①どちらがいいと思いますか。 ○で囲みましょう。</p> <p>「A」の方がいい。 「B」の方がいい。</p>	<p>①どちらがいいと思いますか。 ○で囲みましょう。</p> <p>「A」の方がいい。 「B」の方がいい。</p>
<p>②それはなぜですか。理由を複数書きましょう。 友だちの意見も聞いて書き加えましょう。</p> <p>それは分かりやすいからです。紙くすより、くすくす、東京に帰ってもお湯に入っても、かきかきでも、想像しやすいから私はBの方がいいと思います。</p>	<p>②それはなぜですか。理由を複数書きましょう。 友だちの意見も聞いて書き加えましょう。</p> <p>「A」の方がいい。理由は、東京に帰ってもお湯に入っても、想像しやすいから。紙くすより、くすくす、東京に帰ってもお湯に入っても、かきかきでも、想像しやすいから。私はBの方がいいと思います。</p>

比喩等の効果について考えたこと

3

比較しながら読む

評価しながら読む

「やまなし」の「五月」と「十二月」の場面を読み、共通点や相違点を話し合しましょう。

「五月」と「十二月」の文章を比べて読み、作者が伝えたかったことは何かを考えることができた。「五月」では、命のつながりや生と死にかかわること、「十二月」では、平和や自然の流れにかかわることが書かれているという意見が出た。子どもたちから次々と意見が出てきたのは、学習の仕方や考え方について、指導例による学習で共通理解できていたからである。

2

指導例

比較しながら読む

評価しながら読む

「注文の多い料理店」の文章の最後の一文の効果について考え、理由とともに書きましょう。

由美：最後の一文はない方がよい。

知子：最後の一文はある方がよい。

知らないのだからいいです。	思いました。あると、もとのとおりにはなお	ない方が二人の顔が戻ったようになるのでいい	私は知子さんの考えに賛成です。理由は、	私は由美さんの考えに賛成です。理由は、
この文で作者の気持ちが分かるのに、なけれ	この文で作者の気持ちが分かるのに、なけれ	この文で作者の気持ちが分かるのに、なけれ	この文で作者の気持ちが分かるのに、なけれ	この文で作者の気持ちが分かるのに、なけれ

80字 60字

最後の一文の効果について考えたこと

「友だちの考えを参考にしながら自分の考えをもち、文章中の言葉を根拠に理由を書き、伝える」という「考え方」「表現の仕方」が身に付いた。

また、物語を読むときには、内容の読解だけではなく、作者の考えや伝えたいことに対して自分の考えをもって読むことも必要であることを理解した。

「五月」と「十二月」の共通点と相違点